

## 公募による福祉活動応援助成事業申請 Q&A

Q1 総会実施後に会員の交流会を開催したいのですが助成の対象になりますか？

A 同じ組織や団体に所属している人たちの総会や会合、懇親会、飲食会に類する事業は助成対象となりません。総会や会合は団体そのものの運営に係るものなので福祉活動には該当しません。また、会員のみの懇親会や飲食に類する事業は「自分のまちを良くするしくみ」「困ったときはお互い様」の精神に則った共同募金の趣旨に合致しないので対象となりません。ただし、福祉活動を行うための研修会を開催する場合、または人が集まる総会開催の日に合わせて一般市民向けの研修会や講演会を開催する場合は、その部分に関しては助成の対象となります。

Q2 高齢者世帯交流会、世代間交流会は助成対象となりますか？

A つながり希薄化が大きな地域課題になっています。地域のつながりの拡大をめざした活動は大切な福祉活動に位置付けられますので助成対象となります。しかし、開催したらいつもと同じメンバーだった、或いは会員だけだったとならないようにより多くの参加が得られるよう積極的な広報活動をお願いします。

Q3 ボランティア団体で研修や研修旅行を企画していますが助成対象となりますか？

A ボランティア団体は福祉活動を行うことを目的とした団体が多く、外部研修会への参加、研修会の企画、或いは研修旅行を開催して平素の活動に資する知識・技術習得のために研鑽を積むことは大切なことです。よって研修会や研修旅行も助成対象となります。しかし、研修旅行の場合、団体の活動と直接結びつかない観光旅行となると「会員、構成員同士の親睦を目的とした事業」として判断され助成対象とならないことがあります。研修内容、研修先を審査しますのでその旨を申請用紙にご記載ください。

Q4 地域市民に呼び掛けて旅行ツアーを企画していますが助成の対象となりますか？

A 旅行ツアーといっても様々ですが、共同募金の助成で観光旅行に行っているとなると募金者のご理解は得られません。民間旅行会社でもパッケージ商品がありますので、一線画した工夫が必要です。具体的には①活動概要「目的」の欄に、地域における福祉課題を解決するための活動であることを明記してください。例えば、地域の一人暮らし高齢者の交流促進や顔の見える関係づくりのための世代間交流といった設定が必要になります。さらに②行き先や内容に研修要素を盛り込んでください。例えば、地域おこしの先進地へのツアーを企画しても良いでしょう。自然や郷土歴史に触れることで自分の地域を見つ

めなおすきっかけになるかもしれません。学芸員やボランティアガイド、地域関係者の案内レクチャーを活用し人を介することで研修的要素を高めてください。

行程中の参加者の交流も確かに大きな楽しみかと思いますが、共同募金の趣旨に照らし、福祉的活動であること、学びを得る活動にすることで募金された方の共感を誘う取り組みになるかと思います。

Q5 お隣の自治会が助成金を活用して座椅子を購入したので、うちも申請できますか？

A 座椅子のみの購入であれば助成対象となりませんが、福祉活動に活用するために座椅子を購入するのであれば助成対象となります。ただし、5年以上は申請した福祉活動に使っていただく必要があります。座椅子を購入して次年度から活動を休止となると助成対象にはなりません。また、自治会申請であれば、申請した福祉活動以外にも総会等の自治会行事での使用も想定されますので、別表1の「備品」の項目に記載している通り、2割の団体負担となりますのでご注意ください。

Q6 指定管理施設の備品を申請したいのですが助成対象となりますか？

A 指定管理施設は地方公共団体が設置・運営している施設に該当しますので備品購入に関しては、市に予算化してもらうことが原則となります。ただし、協定上、指定管理者において購入することが規定されている場合等の事情がある場合は本会事務局にご相談ください。

Q7 「可能な限り、北秋田市内の業者より購入ください」とありますが、あきらかにネット購入が安いのですがその場合はどうすれば良いですか？

A 共同募金は循環型募金です。戸別募金や街頭募金、法人募金、学校募金のほかにも市内の業者からも大口募金や募金箱の設置等でご協力をいただいております。北秋田市内で集めた募金はそのほとんどが北秋田市内の「自分のまちを良くする」活動に助成されます。募金にご協力してくださっている企業の皆様にも少しでも還元したいという趣旨です。ネット販売でしか購入できない、或いは安価なネット販売で購入しないと上限内に収まらない等の事情がある場合を除き、市内の業者からの購入をご検討ください。尚、適用範囲は自分の住んでいる地区内の店舗という意味ではなく北秋田市内全体という範囲でご検討ください。

Q8 行事指導の諸謝金の算定について、グループへの謝金の取扱いは如何に。

A 講演会講師、体系的なレクリエーション指導、専門家による料理指導・PC 指導、プロダクションに所属して芸能活動をしている方、プロの音楽家による演奏や指導等の場合は～2 万（最大 5 万円）までの諸謝金が算定できます。工作指導、民俗継承、一般的な調理指導、アマチュアバンド、民間ボランティア団体等への謝礼は行事指導とし、半日 3,000 円、一日 5,000 円までとします。グループへの謝金の算定方法については、一つのグループにつき半日 3,000 円、一日 5,000 円となります。（グループが 6 人なので 3,000 円×6 人分は算定できません。）尚、催しの中で複数のアトラクションを企画する場合は各アトラクションで算定できます（例：工作コーナー指導とラテアート指導それぞれにカウント可）。

Q9 助成対象団体に「この運動にみずから積極的に参画、推進する団体とします」とありますが、具体的にはどのような形で参画や推進を図れば良いのでしょうか？

A 共同募金は循環型募金です。お互い様の精神が根底にあります。使うだけで募金運動に関わらないということであれば、募金をしてくださった方への説明が難しくなるばかりでなく、募金運動そのものが衰退してしまう恐れがあります。したがって様々な形で募金運動に関わっていただくことを条件としています。地区によってやり方は違いますが自治会の皆さまには戸別募金ですでに多くのご理解をいただき参画していただいております。ボランティア団体の皆様には毎年 10 月 1 日に開催する街頭募金への参加のご案内をしておりますので積極的な参加をお願いしています。その他、募金箱の設置場所の斡旋やイベントでの募金箱設置（貸し出し可）も考えられます。

さらに、募金運動や助成金の事業そのものを見える形で P R していくことが大切です。購入した備品に赤い羽根シールを貼る。活動を新聞記事にしてもらう。共同募金のノボリや横断幕を会場内に設置するといったことも大切です。

皆様のご協力をよろしくお願いします。